

【※平成26年7月8日時点】

資料 4

## 北九州市子ども・子育て会議 委員・専門委員 意見一覧表

【平成26年度第3回会議検討施策該当分抜粋】

整理 No.	提案 委員・専門委員名	提出日等		該当施策	意見概要	別紙
20	浜村委員	H26.7.8	意見書	施策11	地域小規模グループの設置が推進されているが、小規模グループにすれば職員の1人勤務が多くなり、負担も大きくなる。市独自の特例として、地域小規模児童養護施設1ヶ所の設置につき、職員1名の増員をお願いしたい。	有
21	浜村委員	H26.7.8	意見書	施策11	児童養護施設の職員が、施設内の日常物品等の修理等に時間をとられ、非常に負担となっている。施設に用務員のような方の配置をお願いしたい。	有
22	香月委員	H26.7.9	意見書	施策7 (施策1)	長時間保育の推進と家族で過ごす時間、子どもの睡眠時間の減少について (詳細は別紙参照)	有
23	香月委員	H26.7.9	意見書	施策1 (施策9)	子どもの発達におけるテレビやインターネット利用の影響について (詳細は別紙参照)	有
24	香月委員	H26.7.9	意見書	施策7	病児保育の拡充と子どもの健やかな成長について (詳細は別紙参照)	有
25	香月委員	H26.7.9	意見書	施策2	子どもの感染症について (詳細は別紙参照)	有

北九州市子ども・子育て会議

子育て施策等に関する意見書

氏名	濱村 千鶴子
提出日	平成26年7月8日
表題	施策11 社会的養護が必要な子どもへの支援
<p>内 容</p> <p>※箇条書きで簡潔にご記入ください。本様式に納まらない場合等は別紙を添付してご提出ください。</p>	
<p>(1)国の方針で児童養護施設では、「全ての子どもたちが出来る限り家庭的な環境での養育が必要であるとの事で、小規模グループによるきめ細かなケアをする形態が将来的な方向として考えられています。その中で地域小規模グループの設置が推進されています。小規模にすればするほど、職員が必要になってきます。一人勤務が多くなり、負担も大きくなります。そのために地域小規模児童養護施設を一ヶ所設置すると市独自の特例で一人の職員の増員を是非お願いします。</p>	
<p>(2)日常の物品の破壊したものや修理するとまだ使用できる物に対して、一人の職員が時間をかけて修理・改造しています。児童の処遇がおろそかになり、非常に負担になっております。その都度業者にお問い合わせすると費用がかかります。そのためにも、用務員のような方(名称は何でも良)の配置をお願いします。</p>	

※事務局受付欄

受付日	・	・

整理No. 22,23,24,25 別紙

## 香月きょう子委員 意見書

(平成26年7月9日)

今の「子ども子育て会議」の目指すところが、子どもの育ちに本当に良いのか、今一度考えてみる必要があると思います。国の方向性からそうですが、親が働きやすいようにという視点が第一で、子どもの育ちや気持ちなどをあまり考えていないように思います。もちろん、労働力を確保するという事は、国家を運営する上で重要なこととはわかっています。しかし、そのやり方をしっかり考えないと次世代を担う今の子どもたちが、本当に社会に役立つ成人になれるかどうかを左右しかねません。職業というものは、社会に役立つから、職業として成り立つのです。つまり、次世代を担う子どもたちを社会に役立つ成人に育てなければ、国力は衰えるばかりでなく、まっとうに自分で収入を得る方法を身につけなければ、社会に順応して自立して生きていきにくくなります。

私は、北九州市医師会理事として、4、5歳児健診票を取りまとめた際、保育園児は幼稚園児に比して、1時間就寝時間が遅く、30分～1時間早く起きている実態を把握しています。最近、園医をしている保育園でアンケートをして、9時間程度しか寝ていない実態を把握しました。保護者の方々に成長における睡眠の重要性について講和をさせていただきました。子どもは小さな大人ではありません。人間は他の動物と違い未熟な未成熟な状態で生まれてきて、ほぼ20年かけて成熟し、成人となります。その間成長を続けているという事です。子どもの成長に「寝る子は育つ」ということわざのように睡眠は不可欠です。逆に言えば、「寝ない子は育ちが悪い」という事です。医学的にも、規則的にしっかり寝る子はしっかり成長ホルモンが出ます。成長ホルモンは、身体や脳を発達させるのに重要なホルモンです。逆に睡眠が足りない子は、イライラしてキレやすかったり、うつ傾向が出たりします。たぶん、成人になった時に、比べようはありませんが、まともに寝た時と能力の差はあると思います。また、夜遅く寝ると脳内ホルモンのバランスが変化し、甘くて脂っこい物を好むようになるという事もわかってきました。当然、肥満傾向が出やすくなると思います。また、夜遅く寝ると朝ごはんの際、起きてから間もないためという時間的な制約もありがちなので、食欲がないという事に繋がります。食べた後胃腸が動き排便に繋がりますから、排便のリズムも狂います。先ほども上げたように子どもは小さなおとなではありません。大人のように肝臓や筋肉にグリコーゲンといった備蓄エネルギーが十分あるわけではありませんし、成長するためにバランスのよい食事が日々必要です。

しかるに、保育時間の延長や放課後児童クラブの時間延長を推し進めるという事は、夕食が遅くなり、家族の話をする時間を減らし、睡眠時間が減るという事は明らかです。それ以外に幼稚園。保育園のマンパワー不足もあり、子どもの育ちに影響があるのは目に見えていると思います。経済的な問題はあるでしょうが、こういった負の部分があるという事を踏まえて、十分な議論をして政策を進めて行ってほしいと思います。

また、スマホの色調、リズムは小さな子どもは大好きです。簡単にはまってしまいます。特に多動傾向のある子は多動傾向を助長すると言われています。スマホの子どもサイトを見せて、家事やお化粧をするというお母さんもいると聞いています。あまり、スマホやIT

に小さいころから接触させるとコミュニケーション能力の発達が悪くなるという事がわかってきて、日本小児科学会では2歳までは、TVを含めたITとの接触を避けよう、その後も2時間以内にしようと勧告を出しています。子どもの発達において脳・神経系の発達は5～6歳くらいまでに90%程度できてしまいます。そのような、脳・神経系が一番発達するその時期に、その発達を阻害するようなものを大量に与えてはならないと思います。時期を外したら、中々取り返せないという事は政策を考える場においては真剣に考えるべきだと思います。今、小中学校ではライン等で、止められない事から、止めた子外しといったいじめが問題になっています。有害サイトもあり、フィルタリングも含めて、小さな時から地域ぐるみでのルール作りが必要であろうと思います。

非行や問題行動を起こす子どもたちは、放置されたり、家庭に居場所のない子どもたちです。子どもは、特別な関係、特別な思い入れのある保護者が、思い入れを持って育ててこそまっとうな成人になると思います。私が、病児保育を拡充していくのを反対するのは、この辺からです。病気のひどい時期に他人に預けられる子どもの気持ちはどうでしょうか。病気の時は大人でも不安になります。まして子どもは放置された、お仕事の方が私より大事なんだということを思わないでしょうか。この事が、親子関係の構築、自尊感情の低下に繋がり、非行・問題行動に結びついていることが多いと相談員さんから聞いたことがあります。また、あまりに便利になると安易に預けるということになるでしょう。安易であるという事が親としての自覚の育ちに影響があるものと思います。また、社会的に、子育てよりも、しごとの成果の方が評価される傾向があります。子育てに対するまっとうな評価、次世代を育成するということは国家への貢献だというまっとうな評価が必要だと思います。

感染症に関してですが、子どもは感染症に対する免疫は、母親からの抗体を使い切った後は、自分で感染症にかかり、対抗する抗体をつくって行かなければなりません。子どもが大人並の免疫状態になるのは小1～3くらいです。つまり、感染症にかからずに大人になることは、不可能で、集団になる時間が長時間になると感染の機会が増えるという事でもあります。細菌に対するお薬は抗生剤ですが、ウィルスに対して薬があるのは、インフルエンザと水疱瘡だけです。つまり、殆どのいわゆるカゼの原因はウィルスですから、症状を軽くし体力を温存し、やり過ごすという治療がほとんどです。その中でも、予防接種法で規定された感染症でも、ほとんどが対症療法です。はしかのように罹ったら1000人に1人は脳炎等で亡くなる、風疹のように高度の難聴、白内障、心臓奇形を起こす先天性風疹症候群を誘発し周りの障害率を上げるといった、生命に危険があるもの、重大な合併症を起こすもの、社会的悪影響のあるものに予防接種法で規定された予防接種があります。

これらの事を十分勘案の上、計画を作成・施行されることを望みます。